

金大中氏死刑攻撃阻止！

金大中氏を殺させるな！



日刊 勤労千葉

80.8.11

No. 505

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆）四三三（宅）七二〇七

『軍事法廷を八月一四日から開始』と発表！ 救出運動を更に大きく、急いで、まき起していこう！

光州市民を虐殺し、金大中氏の抹殺を強行し、宗教人・言論人・教授・学生・労働者を次々と無差別逮捕し、政府部内の反全斗煥派の粛清を進める全斗煥軍部独裁政権の弾圧は極限を極めていっている。

中で、すさまじい熱意をこめて行われた。道ゆく人々は、全斗煥の血の弾圧をテレビを通じて見た感想を怒りをこめて語り、また日本政府が全面的にこの全斗煥を支持している事等をわいぬれの話しから聞き、大きな怒りをこめて次々と署名カンパにに応じてくれた。そして短時間のうちに署名四二〇名、カンパ額二九〇〇円が集約されたのである。

全斗煥軍部独裁政権は、全大中氏らに対し「国家保安法」「内乱予備陰謀罪」「反共法」違反……等々のテッパ上げ容疑をもって八月一四日から軍報会議（軍事法廷）を開始することを発表した。この金大中氏らに対する死刑攻撃こそ、光州五月蜂起に対する恐怖の報復である。わいぬれは、この攻撃を満腔の怒りをこめて弾劾する

続いて八日「ら致事件七周年・金大中氏らを殺させるな！国民大会」が日比谷野音で開催され、勤労千葉も組織動員をもって県労連隊列と共に銀座デモを最後まで貫徹した。

浄きよる連帯・救出の運動！
勤労千葉、県労連と共に、勤労千葉駅頭街宣、8日比谷集会へ決起！

全斗煥の血の弾圧支える日帝・鈴木体制打倒！

体制打倒！

全斗煥による死刑攻撃の緊迫に対し、「金大中氏らを見殺しにするな。」を合言葉に全国津々浦々に救出運動が今、急速にまき起りはじめられている。
一方で日本支配者階級は、光州五月蜂起にすさまじい恐怖感をつのらせ、南朝鮮への政治的軍事的支配を一挙に強め、軍事大国化路線を急速につよめ、その頂点として全斗煥の金大中氏抹殺攻撃を背後で強力にあおっているのだ。
八月七日、千葉県労連の呼びかけに応之勤労千葉は、金大中氏ら全政着犯の救出を訴える緊急署名カンパ活動を千葉駅頭において実施した。この活動には、県労連・婦人会議・国労も参加し炎天下の



われぬれは、日帝・鈴木体制こそが全斗煥の血の弾圧・武力暗黒支配を背後で支える張本人であることを徹底的に明らかにし、弾劾し打倒しなければならぬ。

癸足早々「日韓関係は不変」と表明し全斗煥軍政に全面支持協力を行っているのが日帝鈴木体制であり、朝鮮・アジア侵略への道に急速度でのめりこんでいる。生命かけて「自由よ、人権を」と決起し即ち南朝鮮人民にこたえ、闘いを強化しよう。